

令和元年 9月2日
沖縄気象台

令和元年の沖縄地方の梅雨明けが過去最も遅くなりました

令和元年の沖縄地方の梅雨明けは、天候経過を総合的に検討した結果、7月10日ごろとなり、1951年の統計開始以降、最も遅くなりました。

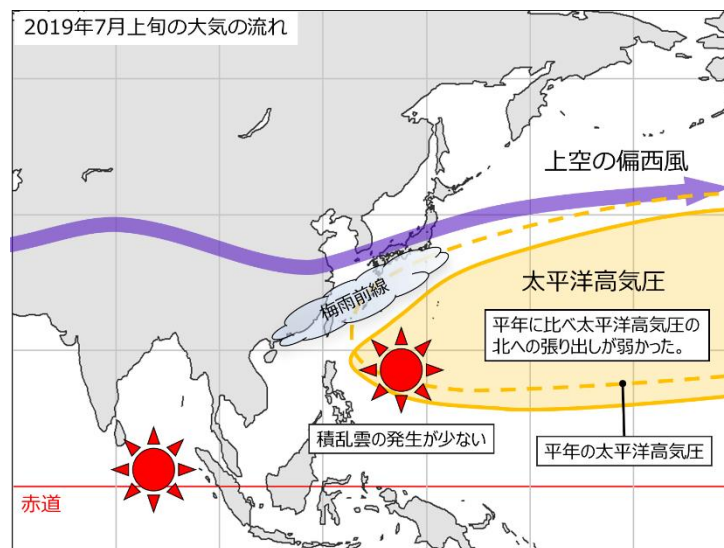
1. 沖縄地方の梅雨明けの遅い年

順位	年	梅雨明け
1	2019	7月10日ごろ
2	1976	7月9日ごろ
3	2009	7月6日ごろ
3	1982	7月6日ごろ
3	1975	7月6日ごろ

梅雨明けには、平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇ごろ」と表現した。

2. 梅雨明けが遅くなった要因

7月上旬まで太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、前線が平年より南に位置する状態が続いたため、沖縄地方の梅雨明けが遅くなりました。太平洋高気圧を弱めた要因として、①偏西風が平年より南偏し、また日本付近で南へ蛇行したこと、②フィリピン付近で積乱雲の発生が少なく、対流活動が不活発となったことが挙げられます。



問合せ先：沖縄気象台地球環境・海洋課 担当 砂川・安井
電話 098-918-4012